

【問い合わせ先】

伏木海上保安部

交通課長 山本 康浩

電話 0766-44-0196



令和2年1月9日  
伏木海上保安部

## 令和元年の船舶事故及び人身事故の発生状況について（速報）

伏木海上保安部が取り扱った船舶事故及び人身事故の発生状況を取りまとめましたので、お知らせします。

[添付物（過去5年間の事故発生状況資料）](#)

- 船舶事故は12隻（前年19隻に比べ7隻減少）
- 船舶事故による死者・行方不明者は0人（前年も0人）
- 人身事故は24人（前年22人に比べ2人増加）
- 人身事故による死者・行方不明者は12人（前年14人に比べ2人減少）

※本データは令和元年末で取りまとめた速報値であり、現在原因等調査中の事故を含んでいることから、後日修正されることがあります。

### 1 船舶事故

船舶事故は12隻（前年19隻）で、前年に比べ7隻減少しました。

- (1) 船の用途別に見ると、プレジャーボートが8隻、貨物船、旅客船、遊漁船、漁船が各1隻となっており、プレジャーボートの割合が6割以上となっています。

前年に引き続き、プレジャーボートの海難が多い状況です。

- (2) 海難種別においては、衝突、推進器障害、運航障害が各3隻、転覆2隻、安全障害1隻となっており、前年は、大雪による事故が9隻（内浸水6隻、転覆3隻）発生しましたが、今年は大雪による事故が0隻であったため、海難が減少した要因だと考えられます。

- (3) 船舶事故による死者・行方不明者は平成26年から発生していません。

## 2 人身事故

人身事故は、24人（前年22人）で前年に比べ2人増加しました。

- (1) マリンレジャーに伴う海浜事故は5人（前年8人）で、前年から3人減少しています。遊泳中が3人、磯遊び中、ボートセイリング中が各1人でした。近年は釣り中の事故が半数近くを占めていましたが、今年は0人でした。これは港湾管理者が防波堤上の立入禁止区域にフェンスを設置した効果であると考えられます。
- (2) マリンレジャー以外の海浜事故は11人（前年13人）で、前年から2人減少しています。自殺が6人、海中転落が3人、その他が2人となっています。
- (3) 船舶海難によらない乗船者の事故は8人（前年1人）で、7人増加しています。これは漁船員の作業中の事故が多発したため増加しました。

## 3 今後の対応

伏木海上保安部では、船舶・人身事故を防止するために海難防止講習会や海水浴場のパトロール等を実施していきます。

特に、死亡事故が発生した海水浴場がある自治体、関係者と連携し事故防止活動を展開していきます。